

【抄録】

題名：露地育苗管理時の殺菌剤散布によるアジサイ斑点細菌病の発病抑制

著者：池田健太郎¹・古屋修²・小林智彦¹

群馬県農業技術センター¹ 現在 群馬県農政部蚕糸園芸課

雑誌名：日本植物病理学会報 第88集 (2022) p. 12-17

要旨

In this study, we investigated the suppressive effect of polycarbamate and organic copper against hydrangea bacterial spots associated with *Acidovorax valerianellae*. The application of polycarbamate significantly suppressed the disease in four out of five trials, while organic copper significantly suppressed the disease in two out of three trials. We used generalized linear mixed models to evaluate the integrated effect of each of the two fungicides throughout all trials. In our experimental model, the coefficients of polycarbamate and organic copper application in reference to the negative control were -0.70 and -0.90 , respectively ($p < 0.01$). These results indicate that the application of these fungicides can effectively suppress hydrangea bacterial spots. To best of our knowledge, this is the first report that fungicides can suppress disease related to *A. valerianellae* and will contribute to disease prevention in hydrangea production.

題名：ナミハダニ黄緑型およびカンザワハダニに対する気門封鎖型薬剤の異なる処理量における殺成虫および殺卵効果

著者：横山 薫^{1,2}・藍澤 亨^{1,3}・池田健太郎¹

群馬県農業技術センター¹ 現在 群馬県農政部ぐんまブランド推進課³ 現在 群馬県中部農業事務所

雑誌名：関東東山病害虫研究会報 第68集 (2021) p. 56-58

要旨

ナミハダニ黄緑型およびカンザワハダニに対する気門封鎖型薬剤9剤の殺成虫および殺卵効果を5段階の処理量で評価した。その結果、雌成虫に対しては、散布量の増加に伴い、効果が高くなる薬剤と、いずれの散布量においても効果が変化しない薬剤があることが明らかになった。また、プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル乳剤およびデンプン液剤は、両種雌成虫に対し効果が高く、ナミハダニ黄緑型の方がカンザワハダニよりも殺虫効果が高い傾向があった。一方、卵に関しては、両種に対し、マシン油乳剤の効果が最も高かったものの、その効果は著しくなく、その他の薬剤については、効果が低かった。

題名：群馬県におけるナスのミツユビナミハダニに対する各種薬剤の殺虫効果

著者：横山 薫^{1,2}・藍澤 亨^{1,3}・池田健太郎¹

群馬県農業技術センター¹ 現在 群馬県農政部ぐんまブランド推進課³ 現在 群馬県中部農業事務所

雑誌名：関東東山病害虫研究会報 第68集 (2021) p. 59-61

要旨

ミツユビナミハダニに対して、ナスに登録のある薬剤33剤の殺虫および殺卵効果を評価した。その結果、ダイアジノン水和剤、アバメクチン乳剤、エマメクチン安息香酸塩乳剤、ミルベメクチン乳剤、クロルフェナピル水和剤、アセキノシル水和剤、ビフェナゼート水和剤、フェンピロキシメート水和剤、テブフェンピラド乳剤、スピロテトラマト水和剤、シエノピラフェン水和剤、シフルメトフェン水和剤、ピフルブミド/フェンピロキシメート水和剤、フルキサメタミド乳剤およびアシノナピル水和剤は、本種の防除に有効であることが示唆された。

題名：ハクサイダニに対する有効な殺虫剤の選抜方法

著者：横山 薫^{1,2}・藍澤 亨^{1,3}

群馬県農業技術センター¹ ²現在 群馬県農政部ぐんまブランド推進課 ³現在 群馬県中部農業事務所

雑誌名：関東東山病害虫研究会報 第69集 (2022) p. 71-75

要旨

ハクサイダニに対して、ホウレンソウまたはハクサイに登録のある薬剤30剤の効果を3つの異なる検定方法で評価した。その結果、PAP乳剤、MEP乳剤、フィプロニル水和剤はいずれの検定方法においても高い殺虫効果が認められた。一方、エトフェンプロックス乳剤、スピノシン系2剤、フルフェノクスロン乳剤、クロルフェナピル水和剤およびフロメトキン水和剤は検定方法により効果に差が認められた。

また、葉片浸漬法において採取地域の異なる2つの個体群に対して感受性検定を行い、個体群差異の有無を評価したところ個体群間で大きな感受性の違いは認められなかった。

題名：群馬県の未成熟トウモロコシにおけるナミハダニの薬剤感受性および寄主への適性に関する知見

著者：横山 薫^{1,2}・藍澤 亨^{1,3}

群馬県農業技術センター¹ ²現在 群馬県農政部ぐんまブランド推進課 ³現在 群馬県中部農業事務所

雑誌名：関東東山病害虫研究会報 第69集 (2022) p. 76-79

要旨

近年、群馬県において早熟栽培の未成熟トウモロコシでナミハダニの被害が問題となっている。そこで、防除対策構築の一助とするため薬剤感受性検定を行ったところ、レピメクチン乳剤、フルキサメタミド乳剤およびアシノナピル水和剤は雌成虫ならびに卵に対する効果が高かった。この結果は、県内のナスに寄生するナミハダニで確認されている感受性と同じ傾向であった。また、トウモロコシにおけるナミハダニの寄生は国内では報告が極めて少ないことから、トウモロコシの寄主としての適性を探るため、被害報告の多いイチゴを給餌した場合と、発育日数、産卵数および定着性を比較したところ、ナミハダニはトウモロコシ上での発育は可能であるものの、適性はイチゴより劣ることが明らかになった。

題名：モニタリング調査における群馬県の主要品目の土壌理化学性

著者：鹿沼信行²・関口景子^{1,3}・山田浩之¹

群馬県農業技術センター¹ 現在 群馬県農業技術センター 高冷地野菜研究センター²

現在 群馬県西部農業事務所普及指導課³

雑誌名：日本土壌肥科学雑誌第93巻(2022)4号 p. 185-189

要旨

群馬県の主要な夏秋キャベツ、ネギ、施設ナス、施設ホウレンソウ、コンニャクイモ、施設トマト、夏秋レタス、施設キュウリの8品目の土壌について調査した。コンニャクとレタス畑土壌を合わせた結果からリン酸が過剰蓄積しているほ場では鉄とリン酸の拮抗作用により、土壌から鉄の供給が少なくなることが示唆された。コンニャク畑土壌の可溶性銅濃度については、土壌中の腐植含量が多くなると全銅に対する可溶性銅の割合が低くなる傾向にあった。銅の蓄積による根系障害を防ぐために、土壌中の腐植含量を維持させる程度の有機物を補給していく必要がある。特に土壌中の銅濃度が高いほ場では銅含量の低い有機物を施用する必要がある。施設キュウリ土壌では、pHが低いほ場では全亜鉛に対する可溶性亜鉛の割合が多くなる傾向がみられた。堆肥施用により硝酸態窒素などの陰イオンが過剰蓄積することによるpHの低下、それに伴う亜鉛の可給化による亜鉛の過剰吸収も懸念される。今後、肥料取締法の改定により、家畜ふん堆肥の施用増も見込まれるが、銅や亜鉛などの微量要素も加えた土壌診断を行い、過剰に蓄積している要素については、これ以上増加させないような施肥管理が必要と示唆された。